



若者国際連合 — 12

UNITED NATIONS FOR YOUTH
～宇宙時代のルール創り～

mor i 3580

北朝鮮は核・ミサイルの開発を続けると発表した。アメリカを中心とした国際社会は、国連安保理の話し合いを基に、一致して圧力を強めるという方向である。圧力を強めるだけで、この緊張が解決するとはだれも思っていない。ではどうするか？

日本では上空をミサイルが飛び越したと大騒ぎになったが、これで5回目、6回目である。領空・公空ということが国民に知れ渡っていないのである。日本では急に衆議院選挙が行われることになった。アメリカの「核の傘」にこれまでどうり入っていることについて、国民はどう判断しているのだろうかという点も争点の一つになる可能性がある。いずれも難しい問題である。正解はないと言っても良いのではないか？

民主主義国では、選挙の結果がその時点での正解とされてきたようだ。人間はミスをする動物であるとも言われてきた。集団ミスの場合もあろう。しかし、自分が生きたい世の中（日本と世界）はあるだろう。棄権をせず、自分の気持ちに近い主張があれば、その主張に1票を投じることである。

まえがき

もくじ

第1章 宇宙時代のルールづくり

- Q：頭の上を飛び越すミサイルでも撃ち落とせないそうだね？
- Q：日本の宇宙船ってあるの？
- Q：撃ち落としたらどうなるの？
- Q：迎撃成功、人類全滅ということもある？
- Q：迎撃することが人類のために良いことか悪いことか分かっていない？
- Q：核は戦争の抑止力になるという意見もあったが...？
- Q：さらに核の研究開発を続ける国もある？
- Q：宇宙時代にふさわしいルールをつくる必要がある？
- Q：これからでも遅くない？

第2章 もううんざりだ戦争は

- Q：北朝鮮は戦争を望んでいるのか？
- Q：どうしてそんなことが分かるのか？
- Q：太平洋に撃ち込んでいる限り戦争にはならないと...？
- Q：発射地点に近い方が安全という説があるが...？
- Q：核兵器の放射能は怖がるだけだ？
- Q：どうしてこんなことになったのか？
- Q：解決策は？
- Q：日本が「核兵器禁止条約」に反対した理由は...？
- Q：そうすると今度の選挙は大事だね？
- Q：核兵器禁止を国際常識にするのに役立つことは...？

第3章 いこうよ投票へ

- Q：投票で誰に入れたらいいのか分からない...？
- Q：今回の総選挙の主要な争点は...？
- Q：「自分の好きな世の中にする」とは考えてなかった...？

第4章 総選挙の結果

Q：総選挙が終わったね？

Q：その他の感想は？

Q：投票率については？

Q：今の選挙制度は？

Q：1票の格差については？

Q：民主主義の定着を図るには？

あとがき

題1章 宇宙時代のルールづくり

Q：若い人向けの「池上塾」にもあったが、頭の上を飛び越すミサイルでも撃ち落とせないそうだね？

A：それは宇宙時代と言っても、「領空・公空」という定めがはっきりしていないと思われるからだろう。上空何キロまでは領空、それ以上は公空とはっきり決めてあれば、公空にある限り撃ち落とせないことになる。ロシアや中国の宇宙船は地球の周りを自由に飛び回っていても撃ち落とすわけにはいかない。日本の宇宙船でも同じだろう。

Q：日本の宇宙船ってあるの？

A：毎日お世話になっている天気予報やカーナビが困るだろうね。宇宙時代で、プラスの面もあればマイナスの面もあるということだろう。日本の上空を通過したからと言って無暗に撃ち落とすわけにもいかない。上空を爆弾が通過したから気持ち悪いと言って、撃ち落とすことはできないということだと思うね。

Q：撃ち落としたらどうなるの？

A；ミサイルの場合、多くは核弾頭を備えているだろうから、核の放射能が宇宙空間に飛び散ってしまい、人類にとってその影響があるのかないのか分かっていない、ということもある。

また撃ち落とすと言っても、核ミサイルが大気圏に再突入した後か前かという問題もある。日本では大気圏の中だけしか技術的に防衛できないから、成層圏を飛んでくる米軍機に対し旧日本軍の高射砲は届かないもどかしさを感じた私の少年時代とかわらないことになる。

Q：迎撃成功、人類全滅ということもある？

A：そういうことがあるのかないのかも現在では分からない。

Q：迎撃態勢に万全を期すと政治家は言うが、迎撃することが人類のために良いのか悪いのか分かっていない、ということか？

A：分かっていない、とはつきりいえる。ということは攻撃側も、迎撃態勢が間に合うのかどうかも分からないし、どの程度効果を上げるのかどうかも分からないということになる。攻撃側も防衛側も、核の放射能の影響については分かっていないのが本当のところだろう。

Q：核の威力について、戦争の抑止力になるという意見もあったが...?

A：それは20世紀までのこと。今では全人類を殺せるだけの核兵器を持ち、十分に拡散していることは各国とも知っている。今でも抑止力になっていると思っている首脳もいる。核については、国ごとに温度差があるので難しいという面もある。

Q：人類を全滅させるだけの核兵器を持っていても、さらに研究開発を続ける国もある。核は難しいね...?

A：現在の核兵器は広島・長崎の何十倍かの威力があると聞けば、誰でもそうだろうと納得した気になるが、実際には実戦で使われたことは無いのだから、現在の核の威力については誰も知らないのである。人類にとって、プラスなのかマイナスなのかはわからないのである。

Q：宇宙時代にふさわしい国際ルールを創る必要がある...?

A：ガガーリンの時代、つまり東西冷戦の時代に、月にどちらが先に到着できるかを競うだけではなく、言われる通り宇宙時代にふさわしいルール創りを行うべきであった、と思う。私たちは「人間が月に立った」ことに興奮し浮かれるばかりで、ルール創りは思いもよらなかった。

Q：これからでも遅くない...?

A：もちろん。地球外生物がいるかもしれないという時代に、地球人が創ったルールがなければどうなるか、想像してご覧なさい。今からでも遅くはない。すぐに話し合いを始めることだ。話し合いのテーブルには、北朝鮮やアメリカはもちろんのこと、地球上の全ての国が参加していなければならない。国連安保理事会の拒否権などなしに、全ての国が1票ずつの平等でなければならない。宇宙のルールであることを思えば当然のこ

とである。

この話し合いの中で、北朝鮮もアメリカも、言いたいことを言えばよいのではないか？戦争か話し合いかとなれば、戦争を望む国や国民はいないことが明白になるだろう。

第2章 もううんざりだ戦争は

Q：北朝鮮の核ミサイル開発が世界を脅かしているが、戦争を望んでいるのだろうか？

A：北朝鮮のトップは現体制の維持だけを望んでいるのであって、戦争を望んでいるとは思えない。戦争になれば、人類全滅か、国際社会の圧力により現体制の維持を望めないことは分かっている。しかしここにきて少しおとなしくなったと思ったら、気が付いたのである。それまでは、技術的にアメリカ本土まで飛ばせるくらいの距離が出て、核弾頭付きミサイル大気圏再突入の技術さえ示せば、アメリカは交渉のテーブルにつくだろうと思っていただろしいが、そうでないことが分かってきた。実際に、戦争覚悟で発射し、領土の一部を焦土にしないと、話し合いには応じないことが分かってきた。広島・長崎の何十倍の威力と言っても、実戦で発射しその惨状を見せなければならなくなつたのである。なにしろ72年経っているのである。これでは慎重にならざるを得ないと思われる。

Q：どうしてそんなことが分かるのか？

A：日本の上空を飛び越したが、今回で5回目である。20年も前からやっていることである。公海＝太平洋に飛び込む限り、戦争にはならないことを知っている。今回の発射の後トップはこう言っている。「これからは海に向かって発射する訓練をするよう」指示した。海に向かって発射している限り戦争を望んではない、と私は直感した。

Q：グアム島の沖合いをねらった時だね。領土を狙えば戦争になるが、大太平洋に撃ち込んでいる限り戦争にはならないと...？

A：アメリカ本土まで届く距離を飛ばせば、アメリカは話し合いのテーブルに着く決心をするだろう、と思つたらしいが、アメリカはそれに乗ってこなかった。それで一度は太平洋に着弾するように指示した。あとは私の推測になるが、領土の一部を狙えば戦争になるが、戦争にはしたくない。そこで考えているのだろう。

Q：発射地点に近い方が安全という説があるが...？

A：例えば、北朝鮮からは日本や韓国が近いが、もしも実際に撃ち込む場合、核兵器の放射能は、日本海を越え、南北朝鮮の国境を越え、自国に影響があるのかないのか、発

射前は誰もわからない、だから発射しないだろう、安全だという説があった。だから日本は安全だという説だが、相手のあることは分からない、というしかない。私は、北朝鮮が戦争にならずに、アメリカを交渉のテーブルに引き出すことを策しているなら、日本は比較的安全と言ってるに過ぎない。「我慢比べ」のときは我慢が大事なのである。

Q：核兵器の放射能はどれだけの影響があるのかないのか誰もわからない。怖がるだけだ...?

A：怖いからこそ、72年もの間実戦で使われなかったと言える。現在の核兵器の威力は、広島・長崎の何十倍とはいっても、それを実証する方法は戦争以外にない、ことにそろそろ気付くころである。戦争になれば、人類全滅・地球全滅の恐れがあることは皆知っている。

Q：どうしてこんなことになったのか？

A：冷戦時代から、相手よりも強力な核兵器をつくることに、各国とも専念してきた結果、気付いてみれば、全人類を殺せるだけの核兵器を全体として持ってしまった、ということだろう。相手よりも威力があればいいという競争だから、結果として実際の威力を確かめる余裕がなかったのではないか？

Q：解決策は...?

A：広島・長崎以来72年間もの長い間、核兵器が使われなかったという事実がある。その間戦争がなかったわけではない。核兵器を使うことに躊躇するなにか＝国際常識のようなものがあつたのである。その国際常識を広め、伸ばしてゆく方法を考えればよいのである。

この間の「核兵器禁止条約」審議の場合でも、国連加盟の6割以上の122カ国が賛成しているし、今回のノーベル平和賞授与が決まった『国際非政府組織（核兵器廃絶国際キャンペーンICAN）』も、国際常識を後押ししているのではないか？それに『日本憲法の第9条 戦争の放棄』も、国際常識形成の役に立っていると思う。すでに国際世論は核兵器廃絶に向け動きだしている。

Q：唯一の被爆国である日本が「核兵器禁止条約」に反対した理由は...?

A：日本はアメリカの同盟国であり、アメリカの「核の傘」の中にいる、と思っているからだろう。アメリカからの要請があったともいわれている。「自国の安全は自国で守る」という考えもあるし、宇宙時代にふさわしい話し合いによる安全もある。難しい問題で、正解はないのかもしれないが、それぞれの考えをまとめ、総選挙に臨むこととなろう。

Q：そうすると、今度の選挙は大事だね...？

A：いつの選挙でも大事だが、今回は特別大事と言っていいだろう。私はそう思っている。特に、日本の安全保障について、今後ともアメリカの「核の傘」の中でいいのかどうか、真剣に考える必要があると思っている。85歳の私の場合、中学2年で敗戦となり、その後は常に身近に米軍基地があつて、それが当たり前となっていたが、アメリカの力が相対的に低下し、テロや戦争についてはアメリカと同盟していない方がよいという意見もある。一方アメリカと組んでいる方が、安全保障上はいいという考えもある。難しい問題で、正解は無いのかもしれないが、総選挙が迫っている。何らかの意思表示を投票で示さねばならない。

次に憲法改正の問題がある。「現憲法9条 戦争の放棄」が争点となろうが、私の場合は、前の戦争で迷惑かけた償いとして戦争の放棄は大事なことと思っている。これから長く生きられる若者や子供はどう思っているのだろうか？9条以外にも、現代に合わない部分もあり、改憲は大きな問題である。

Q：核兵器禁止の国際常識形成に少しでも役に立つことは何だろう？

A：核兵器禁止に前向きの政権を創るように投票することだろう。別に難しいことではない。「核兵器禁止」はすでに国際常識になっている。それに気づく国もあれば、これからという国もある。

Q：投票で誰に入れたらいいのかわからない...？

A：自分がこういう世の中にしたいと思うことに近い方へと投票するしかない、近づく方へといってもいい。世の中変わってゆくから、基本的なことは押さえておかないとぶれることになる。基本的なことというのは、例えば平和主義とか民主主義とかだろう。貧富の格差も少ない方がいいだろう。

自分がこういう世の中にしたいと思うことは、日ごろから考えて決めておかなければならない、全く同じ考えの候補者がいればよいが、自分の意見に近いまたは近づく候補者に投票することになるだろう。人間は間違いをする動物である、色々な考えの人がいる、自分も人間の一人である。となれば、自分や他人に対し寛大であることが大切と思う。人間は間違いをするのだから、まちがった投票をしても時には許されることもある。とにかく投票をすることが大事であって、棄権は良くないとされている。棄権は白紙委任と自分に都合よくとる候補者がいることと一部の人の意見しか反映されない、民主主義が育たないという欠点がある、といわれている。

Q：今回の総選挙では、何が主要な争点と思うか？

A：大義なき選挙ともいわれているが、私は核の傘を中心とした安全保障問題と憲法改正問題が重要と思っている。核の傘に入っていれば安心安全という人がいるが、アメリカと同盟関係にあることで戦争やテロに近づくという人もいる。「米国第一」という大統領にリードされている国ということのを忘れてはいけない、と考える人もいる。日本はアメリカと中国という2大国の間で生きるしかない、という人もいる。日本の安全保障についてもいろいろな考えがあるが、どれが正解と言えない状況にある。若者や子供たちの意見を聞いてみたい。私はあと何年生きられるかわからないから、意見は言っても未来のことは若者にお任せが良いと思っている。

改憲についても、同じ気持ちだが、前大戦でご迷惑をかけた事を知っているから、「憲法第9条 戦争の放棄」は、これにより72年間核兵器が使われなかったことに役立ったと思っている。現代の常識に合わない部分もあるが、議論に加わってみたい気がする。

消費税10%を中心とした経済問題、森友・加計に対する首相の政治姿勢の問題も争点になるだろう。

Q：選挙の大切なことは分かったが、「自分の好きな世の中にできる」とは考えていなかった・・・？

A：それが民主主義のよいところだろう。しかし日本が民主主義になって72年経っても、民主主義が日本に定着したとは、私は思っていない。その原因と責任は私にもあると思っている。民主主義についての勉強不足と民主主義が定着するための活動不足であったように思っている。焼け野原になった、経済力ゼロからの再建であったから、その方に夢中になって民主主義の定着までは考えられなかったのである。しかし若者には「自分の好きな世の中にできる」ことを実証してもらいたい、と勝手に思っている。それにはまず選挙に行って投票することから始めてもらいたいと思う。

第4章 総選挙の結果

Q：総選挙が終わったね？

A：与党の圧勝といわれているね。総選挙の結果については、最新の民意として厳粛に受け止めなければならない、と私は思う。しかし、「国内の民意を得るためには外に敵を作るのが一番」という古臭い手に、国民がだまされた面あった、と思っている。「敵の核ミサイル迎撃に万全を期す」と言った候補者がいたが、迎撃に成功したとしても、核弾頭から放射能が宇宙空間にまき散らされ、日本人はもちろん人類全滅となる恐れがあることに触れていない。

これでは正しい情報提供とは言えない、と私は思う。外敵の脅威を強調して自分または自党に投票を誘導すると言われても仕方あるまい。古いヒットラーの手法にのせられた部分がある、と私は思っている。候補者も勉強不足なら、有権者も勉強不足という一面があったのではなかったかと思っている。

Q：そのほかの感想は...？

A：小池東京都知事の率いる「希望の党」が失速したと報じられているが、小池氏の「排除の理論」が独り歩きをした感じがする、という説があった。改憲を発議できる三分の二の議席を目指す与党に比べ、あまりにも時間が足りなかったとは言えると思う。

Q：投票率については...？

A：総務省の24日の発表によれば、全年代平均の投票率53.68%に対し、18歳は50.74%、19歳は32.34%と低かったという。全年代平均の投票率が50%台ということは、二人に一人の意見でしかないという説もある。民主主義の定着はまだまだだともいえる説である。私もそう思った。若い人達の投票率の低さは政治に無関心で片づく問題だろうか？今の政治に絶望しているのではないか？政治に絶望＝軍国主義の台頭という、第二次大戦前の状況の再現ではないのか？私はそのことを心配している。

Q：今の選挙制度についての感想は...？

A：今の選挙制度＝小選挙区制プラス比例代表制度は二大政党を目指す制度であり、時代に合っていると思っていない。多種多様な意見を持つのが人間であるとするれば、目指

す政治も多種多様であると言っても良いのではないか？それをむりやり二大政党にくくってしまうのはどうかと思っている。案件ごとに意見が代わるのが自然、という考え方もある。「党議で縛る」というのが今のやり方だが、これにはいくつかの欠点があると私は思っている。「討議に従えばいい」ということで党員がその問題について勉強しない、自分なりの意見を持たない、民意と違って党議だからと言い訳に使うなどなど。しっかり勉強して、自分なりの意見を持ち、責任を持って発言する、これがこれからの政治ではないかと思う。小選挙区制は変えなければならないと思っている。

Q：1票の格差については...？

A：今回の総選挙の低投票率と関係があるともないともいわれているが、直前になって選挙区域が変更になったので、なじめなかった、という声もあった。1票の格差は少ない方が良いが、引っ越しの自由も大事にしたい。人口が変わるたびに、自動的に調整できるようにしたい。

Q：民主主義の定着を図るためには...？

A：「自分の好きな政治」について、皆が自分の事として日ごろから考え、語り、行動することと思う。私たち老人は第二次大戦後の経済的な復興ばかり考え、情熱を燃やしてきたが、民主主義の定着まで頭が回らなかった。今でも若ければ、民主主義の定着まで考えるのだが、責任を痛感するばかりである。

今回も北朝鮮の核・ミサイル発射問題についての若い人たちからの質問が多かった。そういう中で衆議院が解散され、総選挙が行われることになった。私はこれまで何十回も選挙に行っているのに、選挙関連の質問も多く受けた。そこで安全保障問題と総選挙問題と合わせて急遽自分の考えを述べることになった。公正な選挙が行われ、私自ら「自分の好きな政治」を選べることに感謝している。というのは、世界中で自由に「自分の好きな政治」を選べる国はまだまだ少ないからである。人間として生まれた以上誰でも「自分の好きな政治」の中で生きたいと思っているはずだ、と私は思っている。しかし現実にはそうはなっていない。

世界中を見れば、相当な我慢をしてやむをえず生きている人が多い、と聞いている。日本は、第2次世界大戦の300万人の犠牲者の上に、現在の民主主義制度があり、「自分の好きな政治」を選べることを、私は体験している。従って「自分の好きな政治」を実現するためには、なんでもやるという覚悟でいる。「自分の好きな政治」を実現するには、選挙で投票に行くことである、私はそう思っている。

その他の公開中の本 (mori3580)

[若者国際連合一13～地球第一主義](#)

[若者国際連合一11～再び北・核ミサイルの件](#)

[若者国際連合一10～北朝鮮が新時代を創る？](#)

[若者国際連合一9～核ミサイルにどう対応するか](#)

[若者国際連合一8～今はただ我慢比べ](#)

[若者国際連合一7～丸腰は撃たない](#)

[若者国際連合一6～とうとう大統領になっちゃった](#)

[若者国際連合一5～トランプ氏とどう付き合うか](#)

[若者国際連合一4～国民投票・その時あなたは？](#)

[若者国際連合一3～若連が世界を変える](#)

[若者国際連合一2～若連が動き始めた](#)

[若者国際連合](#)

[若者が目覚めた](#)

[みんな目覚めた](#)

[みんな生きる](#)

[テロをなくす](#)

[戦争は怖い！～東京大空襲体験者からの平和のメッセージ](#)